

この建物は、京都高等工芸学校（現・京都工芸繊維大学）校長を務めた染色家の鶴巻鶴二の邸宅として一九二九年に建設されたものです。設計者は同校教授であった建築家・本野精吾（一八八一―一九四四）。「中村式鉄筋コンクリート建築」と称される当時最先端の特殊なコンクリートブロック（通称・鎮ブロック）で建てられた、合理性を追求した建築です。一方でウィーン分離派やウィーン工房の影響を思わせる装飾的なデザインも見られ、モダニズムへの移行期に生み出された独自の建物と言えます。

二〇〇七年にはモダニズム建築の保存に関する国際組織 Docomomo Japan より優れた日本のモダニズム建築の一つとして選定され、二〇二四年には国の登録有形文化財に登録され、二〇二七年には京都市による「京都を彩る建物や庭園」に認定されるなど、近年その文化財的評価が高まっています。建物は老朽化により傷んでいましたが、二〇二二年度より京都工芸繊維大学大学院の教育プログラムにより、学生とともに修復作業を行いました。この建物は、現在、購入者を探しています。建物の歴史的・文化的価値を継承し、長く居住もしくは活用してくださる方を希望しています。この建物の歴史的・文化財価値や修復の成果を広く知っていただき、よりよい継承を実現するため、所有者の栗原眞純氏のご協力により期間を限定して公開することになりました。多数のご来場をお待ちしております。

旧鶴巻邸

本野精吾設計

一九二九年竣工

国・登録有形文化財

# 栗原邸

継承のための一般公開

新オーナー、募集中。

公開日：2023年5月27日（土）・28日（日）・6月3日（土）・4日（日） 10:00-17:00

ギャラリー・トーク：5月28日・6月4日 14:00-15:00

講師：一般社団法人リビングヘリテージデザインのメンバーほか

入場料：一般1,000円／学生500円（収益は栗原邸の修復費用に充当） 申込不要

主催：栗原邸保存研究会／一般社団法人リビングヘリテージデザイン（旧住宅遺産トラスト関西）

後援：Docomomo Japan／京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab／認定NPO法人古材文化の会

問合せ：栗原邸保存研究会／リビングヘリテージデザイン（担当：笠原）

E-mail: [kashara@kit.ac.jp](mailto:kashara@kit.ac.jp) Fax: 075-724-7250



栗原邸 京都市山科区御陵大岩17-2

京都市営地下鉄東西線御陵駅下車  
2番出入口から北方面へ徒歩約10分

駐車場はありませんので、お車での来場は  
お断りいたします。建物および敷地内  
での飲食、喫煙は禁止いたします。

栗原邸の購入をご検討の方は

リビングヘリテージデザイン [info@livingheritagedesign.jp](mailto:info@livingheritagedesign.jp)

まで。一般公開当日も会場で受け付けます。